

ダビデと主の祭壇

(Ⅱサムエル24・1〜25)

一、ダビデが犯した罪

24章はダビデ王が主の御心に反して全イスラエル、すなわちイスラエルとユダの人口を数えたことが記されています。そうすると私たちは思うわけです。「人口を数えるのが、なぜ悪いのか」と。その理由をはっきりと書かれていませんが、前後関係から推測できます。1節をご覧ください。(Ⅱサムエル24・1) さっと読んでいただけでは意味不明の箇所です。じつと見つめても、意味が分からない聖句です。主、すなわちヤハウェの怒りがイスラエルに向かって燃え上がったのです。その理由は、主が「さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ」と言って、ダビデをそのかし、ダビデがそれを実行に移したからです。そうしますと、ダビデをそのかしたという「主」は、主なる神ではなくダビデ王の欲望という意味になります。そういうわけで、サムエル記を底本として書かれた歴史誌には、「主」が「サタン」に書き改められています。それにしても、人口を調査することが、どうして主の御心に適わないことだったのでありましょうか。2節より9節までを読むときに見えてまいります。人口調査を実施したのは軍隊の長ヨアブで

す。すなわち、軍人に人口調査を依頼したわけです。ヨアブはイスラエルとユダの全土をまわり、九か月と二十日後に帰って来て、ダビデ王に報告しています。9節です。(Ⅱサムエル24・9) すなわち、ダビデが行おうとしたのは、軍勢によって国を強くするという、当時の世界にあつては常識的な判断でした。ところが、主の恵みと御力によって成り立ち、主を王とするイスラエルには、まったく合わない考えでした。ダビデが命じたことは、ふだんなら何の躊躇もなく命令に従っていたヨアブが抵抗を覚えるほどのものでした。しかし王の命令が厳しかつたため(↓4節・新共同訳)、ヨアブは出かけました。ヨアブが帰って来てダビデに報告すると、ダビデは良心のとがめを感じたとありますから、それがいかに主の御心に反したことであつたかが分かります。

二、主の裁き

すると、どうなつたでしょうか。指導者に対する裁きは、昔も今も非常に厳しいものがあります。先見者、すなわちダビデ王の参謀であり、また主の預言者でもあつたガドに、主の言葉が降りました。ガドは主のお告げをダビデ王に伝えました。13節です。(Ⅱサムエル24・13) するとダビデ王は賢い判断をします。14節です。(Ⅱサムエル24・14) こうして疫病による裁きがなさ

れたものの、主が当初言われた三日間より短くなつたようです。16節に、次のように書かれているからです。(Ⅱサムエル24・16) そして、ここにダビデの本性が現れます。17節です。(Ⅱサムエル24・17) 私たちは神さまを信じていても多くの過ちを犯す者です。失敗をした時に自分の本性が現れます。「どうか、あなたの御手を、私と私の一家に下してください」は、ダビデの本心です。私たちが過ちを犯した時は、弁解は無用です。

三、ダビデが築いた祭壇

主の預言者ガドは新たな言葉をダビデ王に語ります。18節です。(Ⅱサムエル24・18) ダビデ王は、預言者ガドの言葉どおり、その場所に行きました。そこはエブス人アラウナが麦を打つていた、何の変哲もない脱穀場でした。アラウナは王さまと家来が自分の所に来たものですから、当然のこと、地にひれ伏し、礼をしました。アラウナは尋ねました。「なぜ、王さまは、このしもべのところにおいてになるのですか」と。ダビデ王は言いました。「あなたの打ち場を買つて、主のために祭壇を建てるためです。神罰が民に及ばないようにするためです」と。アラウナは答えました。22節、23節です。(Ⅱサムエル24・22) ダビデは答えました。24節です。(Ⅱサムエル24・24) こうして、神

罰が止まりました。25節です。(Ⅱサムエル24・25)

四、なぜサムエル記の最後に

なぜこの物語がサムエル記の最後に置かれたのでしょうか。答えは、その場所にソロモンがエルサレム神殿を建設したからです。サムエル記を底本として著した歴史誌は、はっきり語っています。歴史誌第二章1節です。(こうして、ソロモンは、主がその父ダビデにご自身を現された所、すなわちエルサレムのモリヤ山上で主の家の建設に取りかかった。彼はそのため、エブス人オランの打ち場にある、ダビデの指定した所に、場所を定めた。)と。その場所は、かつてアブラハムが息子イサクを全焼のいけにえとしてささげようとした場所でした。神の不思議な導きです。サムエル記の最後にダビデが再び大きな過ちを犯したことが書かれていますが、自分の罪を認め、言い訳をせず、主の導きに従うときに、問題が祝福に変わるといふ事実を知ります。では、祭壇を築くとは私たちにとつて何に当てはまるのでしょうか。まことの神を礼拝し、主にお従いすることです。主にお従いするなら、義なる神から下された裁きも祝福に変わるといふのが、サムエル記が語っているメッセージです。こうして、サムエル記の編集者であり著者は、列王記に引き継いでいます。